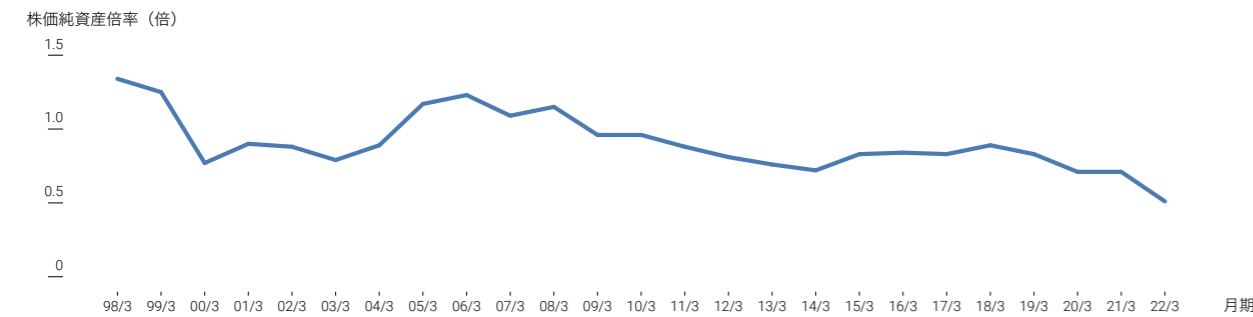


対話を通じた相互信頼の確立

当社グループとすべてのステークホルダーとの相互信頼の関係を深めるためには、企業価値向上に向けた建設的な対話が重要だと考えています。しかしながら、株価純資産倍率(PBR)は、長期にわたって1倍割れの水準で推移しており、市場の期待に応えることができていません。その背景には、ステークホルダーとの対話機会を経営に十分に反映できていなかったということがあります。

この反省を踏まえ、決算説明会やIR取材等を通じていただく株主や投資家をはじめとするステークホルダーの貴重なご意見を当社グループの経営戦略に反映し、中長期的な企業価値向上と実効性の高い経営体制の構築につなげるため、積極的なエンゲージメント活動に努めています。

株価純資産倍率(PBR)の長期推移



ステークホルダー・リレーション

当社グループでは、「企業価値」を、顧客・従業員・株主・投資家などが受け取った「価値」を「統合」したものと定義しており、当社グループとステークホルダーの間の双方向性コミュニケーションを通じて、適切な関係性の維持と深い相互信頼の確立につなげています。なお、IR・サステナビリティ(ESG)に関するコミュニケーション業務は、コーポレートコミュニケーション部が担当しています。

アナリスト・機関投資家向けのコミュニケーション活動実績

活動	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期
機関投資家・アナリストとの個別ミーティング	98回	126回	131回
決算説明会(アナリスト・機関投資家向け)	2回	4回	4回
事業説明会(アナリスト・機関投資家向け)	1回	3回	3回
工場見学会(アナリスト・機関投資家向け)	2回	—	—
証券会社主催カンファレンス	1回	1回	2回
海外ロードショー	2回	—	—
個人投資家向け説明会	3回	1回	1回
社外取締役との個別ミーティング(アナリスト・機関投資家向け)	—	4回	—

活動	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期
IR活動のフィードバック(役員向け)	年に2回	四半期ごと	四半期ごと
勉強会(従業員向け)	統合レポート勉強会を一般従業員対象に実施	統合レポート勉強会をマネジメント層対象に実施	サステナビリティ勉強会を従業員対象に実施(参加者数320名)

「VISION 2030」・新中期経営計画に関するフォローアップミーティング(スモールミーティング)を開催



開催日：2022年6月15日

場所：東京

出席者：代表取締役社長執行役員 安原弘展、代表取締役副社長執行役員 伊東知康、取締役副社長執行役員 宮城晃、取締役常務執行役員 矢島昌明

参加者：11社12名

「VISION 2030」、新中期経営計画に対する投資家の声

全体について

- 「VISION 2030」や新中期経営計画の達成に向けて、スピードを意識して、実効性を高める施策を講じてほしい
- 社長をはじめ、経営陣の変革への意識が高く、安心した。ただ過去の計画に対する実績を踏まえると、計画の実効性が高まっているのか、まだ判断できない
- 創業以来初めて経営理念の枠組みを変えるなど、これまでにない覚悟を発表資料から感じ取ることができ、いよいよワコールが本当に変わるかもしれないという期待を感じた
- ワコールの本質的な課題は現状を変えることに躊躇するカルチャーそのものにある。マネジメント層や一般従業員も含めてどのようなアプローチで自己変革し、カルチャーを変えていくのか示してほしい。変化の必要性は従業員にどこまで浸透しているのか、どこまで変化を覚悟できているのか、確認したい

- ブランド力や商品力があるのに業績が出ていないことにもどかしさを感じている。マーケティングを強化すべき
- ワコールの持つボディデータの質的な価値がどこにあり、それが他の企業とどう違うのか、それらを活かす基盤がどうなっていて、今後どうする必要があるのか、といった踏み込んだ話があっても良いように思った
- 「3D smart & try」をはじめとするDXへの取り組みを、トップラインの成長にどうつなげていくのか。CX戦略の顧客データ数の見込みは理解したが、それをどう実現していくのか。そのあたりの説明を、今後、丁寧に聞いていきたい

海外事業について

- デジタルプライバシー規制によるマーケティング投資効率の悪化など、IO社の成長鈍化の要因はしばらく解消されそうにないと感じている。今後、どのような施策を講じていくのか、継続的にご説明いただきたい

その他

- 政策保有株式に対する方針や株主還元についての取り組みの中に変革に向けた意思を感じることができた
- 最近、好調な企業の特徴として、若い人が活躍しているという点がある。ワコールでも活躍している人が増えているなら、話を聞きたい

国内事業について

- 売上成長に向けたチャネル再構築の時間軸や具体策がまだ明確でないように感じる
- ブランド戦略をもっと明確にしてほしい。特に、「Wacoal」ブランドについては、改めて定義し、グローバルベースで一し、高級ブランドとして作り直した方がいいのではないか

IR優良企業賞2021において、「IR優良企業特別賞」と「“共感!”IR賞」を受賞



近年、IR活動が充実し対話の機会も増えている。特に経営トップが先頭に立ち、業績が厳しい中でも投資家と課題を共有しようとする姿勢は評価が高い。事業会社社長とのスモールミーティング、社外取締役との面談など、積極的に多彩なIR活動を実行し始めている。従業員を対象とした統合レポートの説明会など、サステナビリティに関して全社的な取り組みを行っていることも注目される。

